



おにざわ 鬼沢の鬼神

はじめに

青森県の岩木山は、山の字そのまの美しい姿から津軽富士と呼ばれて親しまれているとともに、古来、霊峰として崇められてきました。3つに分かれた山頂は、南側から烏海山、中央の主峰が岩木山、北が巖鬼山と名付けられ、中でも巖鬼山は赤倉山とも呼ばれて、鬼神が住むと畏れられてきました。赤倉山の鬼神は、山人や大人とも呼ばれ、岩木山周辺には彼らに関する伝承が数多く残されています。

その中でも東の麓にある鬼沢という集落では、私たちが鬼に抱く恐ろしいイメージとは裏腹に、赤倉山の鬼を大切な農業神として祀っています。なぜなら、その昔、田を拓くための灌漑用水路を、鬼が一夜にして造ったからだと言うのです。

鬼沢の鬼神堰

それでは鬼沢に伝わる鬼神の伝説

鬼神社の御神体

鬼沢の鬼神社には、巨大な鉄の鋤や鍬などの農具が奉納され、御神体はポロポロに錆びた50cmくらいの鉄の平鍬の刃であることが確認されており、伝承がある程度事実を伝えていることが分るとともに、鬼沢にとって鉄製の鍬の刃が神として祀るほど感謝すべき物だったことがわかります。



鬼神社には鉄製農具が奉納されている

逆さ堰

また、鬼神堰の別名である逆さ堰の名の由来ですが、実際に水が逆さに流れているように見える場所が確認されています。これは鬼神の魔力ではなく、適正な勾配を求め、山腹

をご紹介します。 「鬼沢が長根派と呼ばれていたころ、村に正直で温良な弥十郎という人がいた。ある日、弥十郎が山へ狩



岩木山

から山裾をグネグネと縫うようにして水路を通したからであり、それを成すにはある程度正確な測量技術が必要だったと考えられます。

鬼平之

ここで花部英雄氏の論稿「山人とは誰か」で紹介する秋田県藤里町向真名子の水無沼というため池造成の話をご紹介します。江戸時代の旅行家であった菅江真澄は、享和2年(1802)にここを訪れ、この沼は大力の平之という者が一夜にして造ったという聞き書きを残しています。実際には、この辺りの灌漑は梅津政景という佐竹藩家老の手によってなされており、元和2年(1616)にトンネルを含む12kmの用水路を引く大工事が行われました。

ここで花部氏は、菅江真澄が「平之」と呼んだ鬼と、梅津政景が開いた「比井野」という地名が似ていることを指摘しています。梅津は家老になる以前に銀山奉行の職にあり、院内銀山の「大水貫」の難工事を完成させており、そのときの技術者を「比井野」の開発のために用いて、そこに住まわせたことから彼らを鬼平之として伝えていたのではないかと

岩木山の製鉄遺跡

民俗学者の若尾五雄氏は、鬼と金属が密接に関係し、鍛冶師や鋳山師



鬼神堰の水路

りにいくと山人に出会った。それから時々行き会ううちに友人になった。ある時、弥十郎は田を拓きたいと考え、山人に相談した。それから山人が開墾を手伝うようになり、数町の田を拓くことができた。しかし、水に恵まれなかったため、時々渇水してしまった。そのことを山人に言うと、一夜にして忽然と水が引かれ、田は潤った。山人は赤倉山の深い谷から大石を砕き、凸凹などこるも水勢を引き延ばして田まで水を引いたのだ。このことがあつてから、鬼が引いた水路を逆水沢と言

い、村の名前を長根派から鬼沢と変えた。 しかし、弥十郎の妻が、山人が働く様子を盗み見ていたため、山人は開墾中に用いた糞笠鍬を弥十郎に授けて去っていった。そして山人が残した糞笠鍬は、堂社を造って祀ることにした。これが鬼神社であり、今にいたるまで鬼沢が栄えているのも

など金属に関わる人々が鬼と呼ばれていた可能性を説いています。

岩木山の北麓地域では西津軽郡鰹ヶ沢町の空沢遺跡をはじめとする、大規模な「たたら製鉄」の遺跡が発見され、古代から近世初期にかけて製鉄や製鋼、鍛冶が行われていたことが明らかになっています。

こうした製鉄民や鍛冶師が何者であったかわかりませんが、例えば中央から津軽に進出し、津軽三千坊といわれた多数の寺社を築いた修験者たちであるとか、中国大陸や朝鮮半島から鉄の技術を持ってやって来た渡来人ではないかなどの説があります。

たたら製鉄では原料の砂鉄を山の

この因縁によるものだ」

実在する鬼神堰

鬼が造ったという灌漑用水路は鬼神堰、または水が下から上へと逆流しているように見える箇所があることから逆さ堰とも呼ばれています。鬼神堰は実在し、今でも鬼沢の田畑を潤していることから、鬼神の伝承は全くの創作ではなく、事実に基づいていると考えられます。

弘前大学大学院教授の畠山篤氏は「岩木山の神と鬼」にて「津軽郡中名字」という古文獻に「鬼沢」の村名があることを確認しており、伝承には鬼神堰の工事が終わってから村名が「長根派」から「鬼沢」に変わったとあることから、鬼神堰は「津軽郡中名字」が編まれた天文12年(1543)以前には、既に造られていたこととなります。では、そのような時代に鬼神堰を造った鬼神とはいったい何者なのでしょう。

斜面を切り崩して採取していましたが、例えば水流を利用して崩す方法では、水を導くために2〜3里の遠方からでも水路を設け、谷間には木管を渡したといえます。こうした採鉄には、まさに灌漑用水路を引くための技術が用いられていたのです。 鬼沢の鬼神堰の建設には、そうした岩木山に棲む金属の民が、製鉄や鍛冶の技術で鉄製の農具を作り、正確な測量を行って山裾に用水路を引いたという古い昔の記憶を伝えているのかもしれない。

おわりに

金属に関わる人々が鬼と呼ばれていたことは通説となっていますが、最近では土木技術者が鬼と呼ばれていた可能性も指摘されました。用水路のトンネル建設に鋳山師が関わっていたことが明らかとなり、鬼と呼ばれた鋳山師らが土木事業に関わっていたことから、土木技術者も鬼と呼ばれていたかもしれないというのです。

しかし、この説は単なる三段論法で、史料の裏付けはありません。また、例えば常民の世界と異なる鋳山で働くことが、鬼と呼ばれる条件ならば、職場を変えても鋳山師が鬼であり続けることができるのか疑問です。面白い説ではありますが、課題は多いように思えます。

(文：江口知秀)

鬼神社の鳥居 鬼沢の鬼は善い鬼であるため、鬼の字に角がない(青森県弘前市)